

## 令和2年度北杜市エコひいき地産地消協力店登録検討会会議録

- 1 日 時 令和2年10月16日（金）午前10時00分から
- 2 場 所 北杜市役所西館2階会議室
- 3 出席者
  - ◆委 員 出席 輿水 順彦、草野 香寿恵、原 真樹子、中田 治仁  
欠席 清水 俊邦 以上（順不同・敬称略）
  - ◆事務局 栗澤 忠之（商工・食農課長）、田丸 敬一、上野 亜弥、篠原 由紀  
（食育・地産地消担当）
- 4 議 題
  - （1）エコひいき地産地消協力店の登録審査について
  - （2）その他
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴人の数 0名
- 7 議事の経過
  - （1）開会
  - （2）委嘱状・任命書交付
  - （3）市長あいさつ
  - （4）会長選出
  - （5）会長あいさつ
  - （6）議 事

本検討会の会長については、北杜市商工会 興水 順彦様とする。

① エコひいき地産地消協力店の登録審査について

- ・事務局から要綱及び登録店の現状について説明をした。
- ・事務局から今年度申請のあった「道の駅こぶちさわ直売所」、「ふるさと旬菜 森樹」、「味の里はくしゅう」、「小淵沢町特産品開発センター」、「清里ジャム（2部門へ申請）」以上の5店舗6部門について現地調査内容等の説明を行う。

議長：事務局から説明のあった5店舗6部門の登録申請について意見、質問等がありますか。

今回申請のあった道の駅こぶちさわや清里ジャムは市が関与しており、地域の物を加工して活用しようという趣旨のもとでできた施設であるため、ある程度の基準はクリアできていると思う。

委員：自然に還ることができる可溶性分解性プラスチックのレジ袋を市の施設が率先して使用し、発信できているのはすごくいいことだと思う。

委員：以前、事前にご飯の量を聞いて提供しているという事業所があった。残渣への取り組みとしていいと思う。

議長：可溶性分解性プラスチックのレジ袋を使うことは環境にもよいと思う。

ご飯の量を事前に聞くことで残渣は減ると思うから、推奨したほうが良い。

課長：環境創造都市、北杜市として積極的に取り組み、発信していきたい。

商工・食農課所管の3つの道の駅・4つの直売所があり、不定期ではあるが連絡協議会という意見交換の場があるため、レジ袋のことを伝え、採用してもらえるところにはお願いをしたい。

また、連絡協議会の中で共通のエコバックを作ろうという意見がある。持っていくことで割引になるという制度を作っていきたいと考えている。

委員：道の駅こぶちさわにロトンドというレストランがある。市役所にお弁当販売をしており、紙のお弁当箱を使用している。付着して食べるのが困難であると思っていたが、施設全体でスローフードや環境に配慮した取り組みを行っていることを知ることができた。

議長：喫茶店でスイーツを提供する際に、以前はステンレス製だったが、今は使い捨てのフォークやスプーンを使用している事業所が多い。プラスチックが入ってしまっているため、環境に配慮した良い方法があれば連絡協議会等で検討し、市から情報を発信してほしい。

その他に質問等がなければ、本検討会では全て承認という事にさせていただきます。

② その他

委員：食杜北杜という取り組みをしていることを市の職員から聞き、商品を購入するようにしている。

課長：北杜高校総合学科の生徒と市内事業所が共同して商品開発を行い、エキュート立川やイトーヨーカドー等で販売を行っている。コンセプトとしては、SDGsの持続可能な開発目標を視野に入れた取り組みである。また、コーディネーターを設け、事業者と連携し、学校の授業で行っている。現在、第3弾に向けて準備をしている。商品開発・販売を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、販売が難しいため、今後はネットを使って販売をしていく。広報等で周知しているが、情報発信が不足していることが反省点となっているため、市内の事業所で販売活動や商品の紹介ができれば市民の皆様に浸透していくのではと考える。委員の皆様にも是非食べていただきたい。

委員：事業所に商品を置いていただき、高校生と開発したというのぼり旗などを立てることで食杜北杜の活動を周知できるのでは。

課長：各事業所の窓口パンフレットやパネルを置き、広く市民の方にPRをしたいと考える。

議長：期間を決めて割引販売などを行えば、より周知できるのではないか。

課長：今までは商品開発に力を入れてきたが、発信・販売への意識が高まってきたため、今後は広くPRしていきたい。

委員：すべて高校生と開発したものなのか。

課長：そうである。それぞれのところでPR、発信をしていただけるとありがたい。

- ・「地産地消コーナー商品陳列棚貸出制度について」事務局から説明する。

委員：間伐し、整理することで間伐材を有効活用でできるのは最高だと思う。

課長：環境保全基金の予算を使った事業である。北杜市産の農産物をPR、環境を守っていくという観点から棚が必要という意見をいただいている。数年同じ事業のため、内容を考えていく必要があるが、需要供給があるため、今後も継続していきたいと考えている。委員の意見を財政当局、他関係部局へ伝えていきたい。

(4) 閉会

以上